

令和4年度 県内で働く保健師は何人？

() R3年度数値

総計	市町村	県	健診機関	産業保健 (企業・事業所)	地域包括支援 センター	福祉関係	その他			合計
							病院・診療所	教育・研究機関	その他	
正規	387(386)	124(113)	39(39)	38(42)	53(53)	6(8)	50(53)	13(12)	6(6)	716(712)
非正規(臨時等)	58(53)	23(20)	5(2)	6(0)	4(7)	4(1)	3(4)	1(0)	13(12)	117(99)
合計	445(439)	147(133)	44(41)	44(42)	57(60)	10(9)	53(57)	14(12)	19(18)	833(811)

R4年度県内で働く保健師は **合計833名** です。昨年度より22名増加しました。(正規4名増、非正規18名増)
 R1年度：758人(うち正規659人、非正規99人) 参考：R4.12月末現在の
 R2年度：757人(うち正規660人、非正規97人) 看護協会加入者は 10,179人(保健師は547人)

集計方法:令和3年度より「保健師の活動基盤に関する基礎調査(日本看護協会)」項目に基づく分類集計に変更。データは大分県福祉保健部健康づくり支援課調べによる「令和4年度 保健師・栄養士名簿(4月1日時点)」及び「大分市地域包括支援センター調べ」で計上。
 ※R3も今年度と同様の調べで計上

保健師ミーティングを開催しました

日時：令和4年10月15日(土) 《参加者》72名

※保健師人材育成指針キャリアラダーA1に位置づけ

実践報告 & 意見交換

「これまでの保健師活動の振り返り～人とのつながりを大切に～」

報告者:宇佐市役所 子育て支援課 後藤早乃氏(新任期) / 松川貴恵氏(指導者)



後藤保健師はコロナ禍により地域の中でつながる機会をもちにくい中、地域診断や日々の活動から1歳児までの親を対象としたオンライン交流会を企画。一方で、母親から関わること拒否され、不安や戸惑いを抱えることも…。それらを自身の学びの機会と捉え、前向きに活動していきたいと語ってくれました。

また、指導者の松川保健師からは、出会いが減ったコロナ禍でも『つながりの大切さ』に気づいてくれた喜び、自身の思いや感情の変化も語れるよう相談しやすい雰囲気づくりが大切だと報告がありました。



講演

「いい仕事をしよう！～未来を担う保健師さんへ～」

講師:大分県立看護科学大学 地域看護学研究室 甲斐優子教授

いい仕事とはよりよい仕事のこと。常に自分自身の活動を振り返り、『3年に1度何かを成す』をモットーに保健活動を展開。地域を動かすキーとなる仲間とのネットワーク構築を始め、保健師活動への熱い想いを語り、私たちを激励してくださいました！

参加者より

- ・相手の「本心」に触れる関わりをしたい
- ・日々感じたことを自身の足跡として残したい
- ・元気をもらえ、本来に立ち返ることが大切と感じた
- ・自分も「いい仕事」ができるようになりたい…等

看護職連携強化交流会を開催しました

日時：令和4年12月10日(土) 《参加者》173名

(保健師35名)

シンポジウム 「新たな医療の在り方を踏まえて、看護職の役割発揮 ～看護職間連携強化に向けた事例の共有～」

- ・東陽地域包括支援センター 保健師 木下 沙織氏 「サービス拒否で家族が疲弊した高齢者の支援」
- ・別府医療センター 副看護師長(助産師) 鍛本愛季子氏 「別府医療センターにおけるハイリスク妊婦支援と保健師との連携」
- ・佐賀関病院 看護部長(看護師Ⅰ) 幸野紀美重氏 「佐賀関病院における地域包括ケアシステムの取り組み」
- ・塩月内科小児科医院 看護主任(看護師Ⅱ) 高野 留美氏 「医療と介護連携における共通様式の検討」

保健師職能からは木下保健師が、医療職への暴言・暴力やサービス拒否があり、家族が疲弊している困難事例への対応についてご報告いただきました。本人や家族の気持ち・希望を汲み取りながら、医療機関・訪問看護師・警察・免許センター保健師等様々な機関と連携し、地域生活を支えること、支援者双方の役割の理解が大切であることを語ってくださいました。



特別講演 「看護職役割発揮『これからの働き方 生産性を向上させる』」 講師:済生会横浜市東部病院 病院長補佐 熊谷雅美氏

日本の労働問題と医療サービスの生産性を踏まえ、今後医療が直面する問題と働き方改革についてご講話いただきました。患者の高齢化、医療の高度化・専門科の分化、入院期間の短縮、医療従事者の高齢化等の問題に対し、時代の流れを読むこと、AIシステムの活用や新たな価値観を受入れる等私たち自身が意識を変えていくことが必要とのことでした。

職能委員からのメッセージ

2020年1～2月ダイヤモンド・プリンセス号におけるコロナ感染から3年が経過しました。ICTが進み、私たちの保健活動や体制も時代と共に変化しました。走り抜けてきた3年間だったと思います。皆様、ご自身の心と体の声を聴きながら、『御身大事』に来年度もよろしくお願ひいたします。

看護協会への新規入会者を募集しています
 (公社)大分県看護協会 ☎097-574-7117